



〒954-0052

見附市学校町2-7-9

電話/Fax 0258-62-2343

E-mail [mrisen@mitsuke-ngt.ed.jp](mailto:mrisen@mitsuke-ngt.ed.jp)

令和4年5月23日 NO.2

見附小学校 一迎会(4/21)

2年生「ツバメダンス」

## ソーシャルキャピタルの高い「見附人」の育成

見附市教育長 渡邊茂夫



4月10日(日)の午前、見附市内一斉にゴミ拾いを行う「クリーン作戦」が行われました。今回で69回目を数えます。ご存じだったでしょうか。クリーン作戦への参加について「健康増進のウォーキングをかねて、お気軽にご参加ください」と案内されていました。天候にも恵まれ、当日はたくさんの市民の皆さんが参加され、その中には家族連れの姿もたくさん見られました。

人口減少・少子高齢化が急激に進む中で、持続可能なまちづくりをどうやって進めていくかは非常に大きな課題ですが、まちをつくるのは人です。地域を大事にする気持ちを、お年寄りから子どもたちまでつないでいくことこそが、地域を守り育て、地域を愛する人を育てます。そのためには、“ソーシャルキャピタル”(社会・地域における人々の信頼関係や結び付きを表す概念)の高い人材の育成が必要です。

クリーン作戦は、その実現のために有効な取組の一つだと受け止めています。69回も続けている意味がここにあると思います。SDGsの視点はもちろんですが、さらには案内文書にもあるようにスマートウェルネスの視点からも有効な取組です。やや極端な言い方ですが、子どもたちの成長過程において、クリーン作戦に参加することの意味は、これからの見附のまちづくりを担っていく子どもたちが、ごみを捨てる側に立つのか、ごみを拾う側に立つのかに関わる重要なポイントだとも考えられます。

参加に当たっては周りの大人の関わりが重要であり、活動に意味付けをして子どもたちに働き掛けることがポイントです。その上で、終わった後の労いや感謝に加えて、「やってよかった」「気持ちよくなった」という自分に気付かせてあげたいものです。学校での清掃活動、当番活動、委員会活動、社会貢献活動、ボランティア活動等についても同様です。

今年の転入・新採用教職員面識会で稲田市長からの話にありましたが、見附市の学校には、ソーシャルキャピタルの高い「見附人」の育成が期待されています。

## 巻頭写真に寄せて

## 「ツバメダンス」で学ぶ

◇4月下旬、校長先生に用事があり、見附小学校を訪れた。すると、これから「一年生を迎える会」があるという。ラッキー、嬉しく声が上ずりながら、「私も、一迎会を見て良いですか？」と尋ねると、「どうぞ。見てください。」と、有り難い返事を頂き、体育館へ。廊下に1年生と6年生が待機。入口にはフラワーペーパーで飾られたアーチを持った4年生。私は、邪魔にならないようにギャラリーに上がる。そこに白帽子姿の2年生がきちんと体育座りで整列をしていた。(右下写真)



入場アーチを通り入場

◇この時は、学年毎に役割が決められているのだと思ったのみだったが、会が進むうちにわかった。密を避けるために、出番がきた学年は体育館へ。他の学年は教室のテレビで視聴をする。出演時間も短めで、激しい動きや大声はなし。よく考えている。コロナ感染症の生活で、活動が中止や大きな制限を受け大変だとの受け止めをしていたが、やり方によっては、集中した中身の濃い教育活動が、実践されている事を学ぶことが出来た。



ギャラリーで出番を待つ

◇表題の2年生の発表「ツバメダンス」の話をする。年寄り世帯の私には、白帽子で水色のビニル袋を着て、ゆったりと踊るこのダンスが分からなかった。K 学年主任に尋ねると「ツバメダンスですよ。」と教えてくれたが、私は「？」だった。調べたら、NHK Eテレ「おうちであそぼう！for school」の番組で、「YOASOBI とつくる未来のうた」企画から『ツバメ』が生まれ、ダンスも作られ、今、流行っていることを知った。

◇番組を見てみた。『ツバメ』の歌詞がいい。子どもたちに支持されるはずだ。有名振付家によって作られたダンスもいい。幼児や小学生からの多くの投稿動画もうなずける。ダンスの監修は、子どもの遊びの重要性と動きの発達を研究する大学の先生が行ったとのこと。良い作品は、何人もの優れた専門家が関わって出来上がっている。さて、県内にも「子どもの成長と運動」を専門とする研究者がいる。県立大学の伊藤巨志先生である。伊藤先生から9月13日の「4時から夢塾」で指導を受ける。楽しみである。

## コラム

## いろいろな考えや生き方があっていい

◇新聞や雑誌の投書欄を読むのが好きで目を通す。趣味や嬉しい出来事、政治への考えなど様々な意見があり、学んだり考えさせられたりする。その中で、生活を見直し、何年も使わない物、着ない物を捨てて、部屋だけでなく気持ちもスッキリしたという記事を目にすることが多い。ものを捨てて、身軽になるという「断捨離」がブームである。ところが、私は若い頃からため込んだ本や旅行先で買い求めた品物、衣類など、実に様々な物が捨てられずにいる。日々、家人から「捨てろ。」と責められるが、性分で捨てることが出来ない。そんな中、五木寛之の『捨てない生き方』という本を読んだ。「モノは記憶を呼び覚ます装置だ。古いモノたちに埋もれて残りの日々を大事に過ごしたい…」に接して嬉しくなった。「いろいろな考えや生き方があっていいのだ。」と納得をした。

◇さて、教員は、とかく皆と同じに行うことを好む。教育の世界で未だに「バスに乗り遅れるな。」の言葉が存在する。また、子どもたちにもそれを求めていないだろうか。みんな同じなら指導がし易いが、様々な考え方や多様な見方、各自の個性を尊重する指導をもっと心掛ける必要がある。子どもたちにも「みんな同じが良い」の空気があるように感じる。不登校傾向にある子どもは、違いを認めてもらいたいのではないか。(こ)

見附市教育委員会では、授業を行うにあたり大切にしてきた、これまでの「新教師の10カ条」を見直し、『見附 教師の10カ条』を策定しました。師がくも始まります。10カ条、そして土台となる実態把握や環境づくり等を意識して授業に臨んでください。

## 学力向上に向けて 授業中にこれだけは大切にしたい

見附のイメージキャラクター「ミック」



### 見附 教師の10カ条

- 1 児童生徒の問いや願いを大切にした授業を行います。
- 2 意図が明確な発問とわかりやすい指示を行います。
- 3 関心意欲を高め、学びを深める教材や教具の活用を工夫します。
- 4 考えの相違やつながりを明確にするなど、思考を深める板書を行います。
- 5 自他の考えを言語化したり、学びを可視化したりして、考えを深める授業を行います。
- 6 児童生徒同士や教師との対話的な学びを生かして、授業を進めます。
- 7 学習内容に応じて、学習形態を工夫します。
- 8 基礎基本の定着とともに、活用力の向上を図る場を充実させます。
- 9 机間支援で一人一人の学習状況を把握し、個別の支援に生かします。
- 10 本時のまとめや振り返りを行い、次時や家庭学習につなげます。

#### 日頃から意識して、大切にします！ 学力向上の土台

- 深い教材研究と事前準備
- 児童生徒一人一人の実態把握と日々の授業改善
- 学習意欲と集中力を高める学習環境づくり
- 学習規律やルールの定着
- 温かい人間関係に支えられた励まし合い、高めあう集団づくり
- 児童生徒の模範となるような言動
- 児童生徒を引き付けるような話し方、視線、表情

【見附市教育委員会・見附市校長会・学力向上プロジェクト推進委員会・「師がく」教育アドバイザー】

# 科学教育部



羽化しておよそ24時間  
経過のトンボ  
国営越後丘陵公園にて

## 【5,6月の研修案内】

5,6月の研修会は予定通り実施します。

1	【植物観察会】 講師：五百川 裕 様 (上教大教授)	5月30日(月) 15:10~16:40 会場：見附小学校	校庭の植物を観察する野外研修会です。身近な植物もさまざまな工夫をして生きています。植物の魅力を感じることができる研修会です。小学校はもちろん、中学校でも生物の分類の新単元で活用が期待できます。
2	【第2回理科主任会】	5月31日(火) 15:30~16:40	県立教育センターより指導主事である篠田英様をお招きし、理科学習の充実に向けた「授業改善」についての研修を行います。
3	【小3~6天体を学ぶ】	6月18日(木) 15:40~16:40	小3~小6の天体学習のポイントと流れ、ICTを活用した天体指導について研修します。

※研修会の申込については終了していますが、新たな参加希望も大歓迎です。

希望がありましたら教育センターまで電話もしくはC4thの「個人連絡」を活用して申込をしてください。

要請研修会も受け付けております~こんなときに活用してください~

- 研修会に参加したいけれど日程の都合がつかない。
- 理科を初めてもしくは、経験がない学年で不安がある。
- 実験の方法がわからない、予備実験でうまくいかない。

教育センター 科学教育部 担当：早田・長谷  
TEL・FAX 62-2343  
E-mail [mrisen@mitsuke-ngt.ed.jp](mailto:mrisen@mitsuke-ngt.ed.jp)  
C4thの個人連絡  
「教育委員会 教育センター」

# 科学の公園

## メダカの飼育～たくさん産卵してください～

第1回理科主任会で、各校にヒメダカの配付を行いました。順調に育っているでしょうか。主に小学校5年生の単元「魚のたんじょう」でヒメダカは活躍します。毎年、何件か以下のような問い合わせがあります。

「水槽の水が汚れてしまうのです。」

「メダカが死んでしまうのです。」

「どうやったら産卵しますか。」

5年生の担当になると初めてメダカを管理するという方もいるかもしれません。なかなか経験がないと生き物の飼育は難しいものがあります。いくつかポイントを紹介します。

### ◎メダカ飼育のポイント

#### 【①水質を悪化させないために】

メダカの排せつ物や食べ残しで水質が悪化します。水質が悪化すると、メダカのストレスになります。まずは適正な数の飼育ができることが大切です。およそ1Lに1匹程度が適正です。水換えも重要ですが、頻繁に水換えをすると有用なバクテリアが繁殖しません。多くても1週間に1回程度で3分の1交換するくらいで十分です。うまくいけば、ほとんど水換えはしなくてもよくなります。ただし、どちらの場合も汲み置きの水を使いましょう。また、バクテリアを繁殖させやすくするために水槽の底に赤玉土や砂利を入れると良いでしょう。



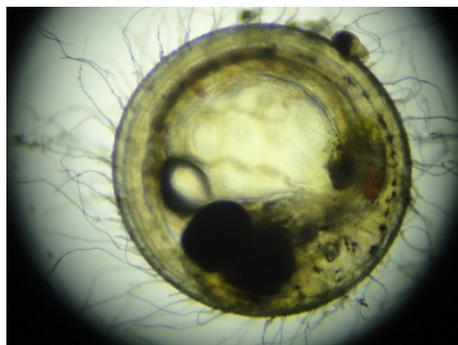
教育センターの水槽です。赤玉土と砂利で水質を整えています。

#### 【②病気から守るために】

各学校のメダカの体の表面に白い点がついているメダカはいませんか？白点病が疑われます。そのメダカは別の水槽に入れてあげて0.5～1.0%程度の食塩水に入れてしばらく様子を見てください。回復出来たら元の水槽に戻してあげて大丈夫ですよ。

#### 【③産卵してもらうために】

メダカは日照時間が12時間以上、水温が20～30℃程度になると産卵の条件が整います。今くらいの時期から毎日のように産卵します。産卵のためにはエサの量を増やすと産卵しやすくなります。ただし、様子を見て量を調整しないと水質悪化の原因になるので注意が必要です。市販の産卵用の栄養豊富なエサも非常に良いです。ミシンコをあげられると非常に産卵率が上がりますよ。



採取した卵を顕微鏡で観察しました。血液の流れる様子もわかります。

